

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	27人	算数	27人	理科	27人
第5学年	国語	35人	算数	35人	理科	35人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

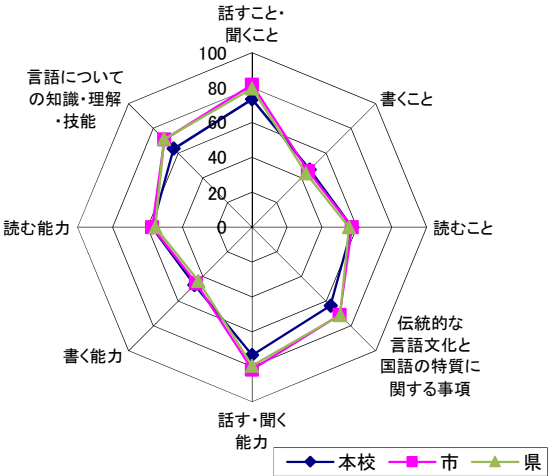
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	73.3	81.6	79.4
	書くこと	46.7	45.4	43.6
	読むこと	57.3	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.6	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	73.3	81.6	79.4
	書く能力	46.7	45.4	43.6
	読む能力	57.3	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	63.6	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

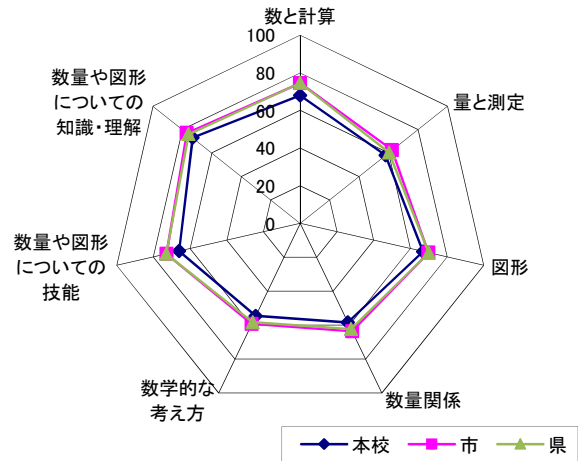
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均より下回っている。 ●理由を挙げながら筋道を立てて話す問題では、市の平均より17.7ポイント下回っている。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する問題では、市平均とほぼ変わらなかった。	・話し合い活動を授業の中で多く取り入れてきたことで、自分の意見まとめ、クラス全員が納得できるような話し合いを進めることができるようになってきている。今後は考えを伝え合うグループ活動やペア学習などを効果的に位置付け、理由を挙げながら筋道を立てて分かりやすく伝える指導を充実させる。
書くこと	平均正答率は、市平均より上回っている。 ○メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く問題では、市平均より4.6ポイント上回っている。 ○文章構成を意識して報告レポートを書く問題や、メモを基に、報告レポートに適切な内容を書き入れる問題では、市平均とほぼ同じである。	・学校行事や生活等の振り返りなど継続的に作文指導を行ったことで、書くことへの抵抗が少なくなってきた。内容を確認したり、書き方の順序を押さえたりしながら、まとめて書く力を付けさせたい。 ・報告レポートなどの作成時には、効果的なまとめ方や表現の仕方ができるよう指導を工夫する。
読むこと	平均正答率は、市平均とほぼ同じである。 ○叙述を基に、登場人物の発言の内容を捉える問題では、市平均より14.4ポイント上回っている。 ○叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む問題では、市平均より2.0ポイント上回っている。 ●文章を読んで感じたことや考えたことを発表する問題では、無回答率が28.0%と高かった。	・日常生活において読書の時間を設定することで本に親しみ、長文に触れる機会を増やしていく。 ・与えられた文章から必要な情報を抜き出すことができるよう、話の筋道をたどりながら読むことの指導を繰り返す行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市平均より下回っている。 ●日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方の問題では市平均より24.6ポイント下回っている。 ●書きでは「波」の誤答が多く、「世界」の正答が多かったが、クラス内での個人差が見られた。 ○漢字の読みは正答率が高く、多くの児童が正しく読むことができています。	・ローマ字の指導時間が少ないので、パソコン使用時のローマ字入力などの活動を積み重ねながら、習熟を図るようにする。 ・宮っ子ステップアップシートや漢字ドリル等を継続して活用し、学習内容の定着を図っていく。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.0	74.5	74.6
	量と測定	58.0	62.4	60.4
	図形	67.0	69.9	70.1
	数量関係	58.4	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	54.5	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	66.0	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	73.1	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

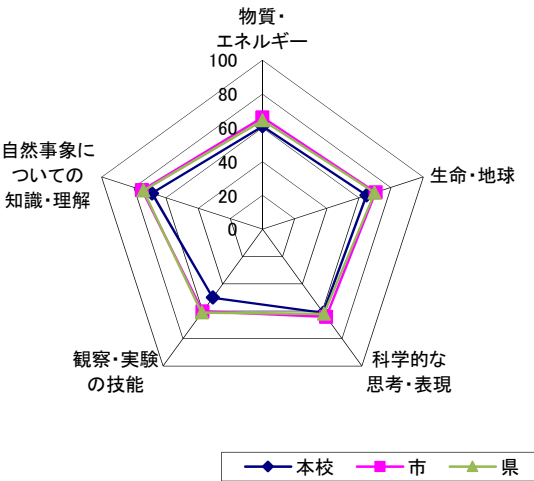
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●整数－小数＝小数(1/10までの小数)の問題では、市平均を19.0ポイント下回った。 3位数×2位数＝4位数の問題では誤答が目立ち、正答率は48.0%だった。市平均を15.7ポイント下回った。 ○3位数－3位数＝3位数(繰り下がりあり)の問題では、市平均より7.0ポイント上回った。	・ドリル学習やミニテスト、フォローアップシートを継続的に 行い、四則計算の正しいやり方が身に付くようにする。 ・朝の学習の時間や家庭学習の内容を工夫し、計画的に 計算練習を取り入れ習熟を図る。
量と測定	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を 求める問題では、市平均を19.2ポイント下回った。正 答率は20.0%だった。 ○はかりが示す重さを読み取り、みかんの重さを求 める問題では、市平均を7.7ポイント上回った。	・実際に重さを量ったり、時刻や時間を読んだりする活動 を多く取り入れ、体験を通して重さや時間の感覚を身に付 けさせる。 ・長さや重さの単位の学習では、単位量をあらわす実物を 用意して見せたり、持たせたりして実際の量を体感させ る。また、時間の学習では、ゲームを取り入れ、1分や1秒 などの時間の長さを感覚的に理解させる。
図形	平均正答率は、市平均を下回っている。 ○正方形に内接する円の直径の長さを選ぶ問題で は、市平均を0.8ポイント上回った。 ●与えられた1辺の続きをかくて正三角形完成させ る問題では、市平均を6.3ポイント下回った。	・定規やコンパスを使って図形を正確にかく内容では、個 人差が見られるので、TTなど学習形態を工夫し個別指導 に重点を置いて、定規やコンパスなどの正しい使い方を指 導する。 ・円や球の直径及び半径の特徴を正しく理解できるよう に、実物を用意して実際に長さを測りながら理解を深め る。
数量関係	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●棒の高さが同じでも表す人数は異なることを説明 する問題では、市平均を14.4ポイント下回った。 24.0%の児童が無回答であり、正答率は16.0%だっ た。 ○□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ問題で は、市平均を3.5ポイント上回った。	・グラフの見方では、社会や理科、総合的な学習の時間な どでも取り扱い、グラフの縦軸や横軸の意味を正しく理解 し、いろいろな見方ができるように指導する。 ・論理的なものの見方や説明ができるように、普段の授業 から自分の考えを分かりやすく筋道を立てて話したり、書 いたりできるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.9	66.1	64.4
	生命・地球	64.7	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	61.1	64.1	61.9
	観察・実験の技能	50.0	60.2	61.0
	自然現象についての知識・理解	68.7	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●実験結果からゴムをねじる回数を推測する問題の正答率は60.0%で、市平均を10.8ポイント下回った。 ●日光を重ねたときの明るさと温度の変化を考察し記述する問題の正答率は16.0%と低い結果だった。 ●磁石の性質を基に口を閉じる方法を選択する問題の正答率は48.0%で、市平均を23.3ポイント下回った。 ●電気の流れる通りの名称を短答式で答える問題の正答率は60.0%で、市平均を15.3ポイント下回った。さらに無回答率も12.0%と高かった。 ●明かりがつくつなぎ方を推測し、選択して答える問題の正答率は36.0%で、市平均を19.1ポイント下回った。 ○物の形と重さや体積と重さの関係が分かる問題では、市平均を5.9ポイント上回った。 ○虫眼鏡で集光したところの明るさと温度の変化が分かる問題では、市平均を5.3ポイント上回った。また、正答率も84.0%と高かった。 ○1つの豆電球と乾電池を使いあかりがつく回路を選ぶ問題では、市平均を5.2ポイント上回った。	・フォローアップシートを活用して既習事項を復習し、道具の名称などについても再度定着を図る。 ・観察や実験の技能定着のために、実験の前に目的や方法について十分に理解させ、目的意識をもって実験に取り組めるようにする。 ・実験や観察の結果からわかることなど、考察を自分の言葉でまとめる時間を設け、自然の規則性や現象について理解を深められるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●図をもとに昆虫を選択し、その理由を説明する問題の正答率は48.0%で、市平均を17.4ポイント下回った。 ●虫眼鏡の適切な使い方を選ぶ問題の正答率は32.0%と低く、市平均を17.7ポイント下回っている。 ●方位を調べる道具の名称が分かる問題の正答率は64.0%で、市平均を21.1ポイント下回った。さらに無回答率も24.0%と高かった。 ○記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明する問題の正答率は56.0%で、市平均を6.0ポイント上回った。	・昆虫に興味をもつ児童は多い。フォローアップシートを活用し、昆虫の体のつくりなどについてもう一度全員で確認し、再度定着を図る。 ・学習した名称や言葉を使って自分の言葉で説明することができるよう、授業のまとめなどで記述する時間を設けるようにする。 ・朝学習の時間に復習プリントで繰り返し学習し、定着を図る。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の本校の肯定的回答の割合は96.0%であり、宇都宮市の肯定的割合とほぼ同じである。また、「自分で計画を立てて勉強している」の肯定的割合は96%で、市の肯定的割合を24.6ポイント上回り、「学校のきまりを守っている」の肯定的割合は96.0%で3.6ポイント上回っている。家庭学習については、提出率も高く、ほとんどの児童が習慣化することができており、学校生活も落ち着いているため、このような結果につながったと思われる。今後も、一人一人の取組を認め、称賛していくことでさらにやる気が向上するようにする。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」の本校の肯定的割合はいずれも市の肯定的割合を上回っているが、65～70%であり、課題が見られる。「家で、テストで間違えた問題について勉強している」「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的割合はいずれも市の肯定的割合を上回っているが、ともに72.0%であり、今後はより明確に、予習・復習の重要性、自主学習の方法について明確に伝えていく必要がある。進んで予習や復習に取り組んでいる児童もいるので、その取組をクラス全体に紹介し、広げていく。

●「先生は学習のことについてほめてくれる」の本校の肯定的割合は96.0%で、市の肯定的割合を10.2ポイント上回っているが、個人差も見られる。また、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の本校の肯定的割合は市の肯定的割合を上回っているが、64.0%と低い。一方で、「自分にはよいところがあると思う」の本校の肯定的割合は88.0%で市の肯定的割合を5.3ポイント上回っている。今後、さらに「ありがとうカード」の活用を図り、話し合い活動、係活動をさらに工夫し、充実させていくことで、一人一人のよいところを明確にし、そのよさを学級全体での話し合い活動や係活動において生かしていけるようにする。エンカウンター活動も引き続き取り入れていく。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」「自分は家族の大切な一員だと思う」「家の人と学習について話をしている」の本校の肯定的割合はいずれも90.0%を超えており、家族内で良好な関係が築けていることが分かる。今後も保護者との連携をより図り、児童理解を深めていく。

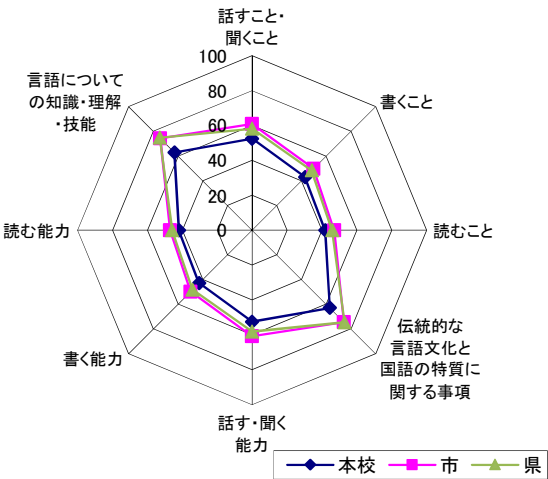
●「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心がけている」の肯定的割合は、いずれも80.0%を上回っているが、個人差がやや見られる。今後、懇談会や学年だより等を通じて、学習面だけでなく、健康面の情報を保護者とし共有していく。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」は市より3.0ポイント、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」は、7.9ポイント上回っている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は10.7ポイント上回っている。このことから、学校全体で取り組んでいる研究の成果が表れていると考えられる。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	52.4	60.8	58.1
	書くこと	42.9	49.8	48.3
	読むこと	41.9	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.9	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	52.4	60.8	58.1
	書く能力	42.9	49.8	48.3
	読む能力	41.9	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	62.9	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

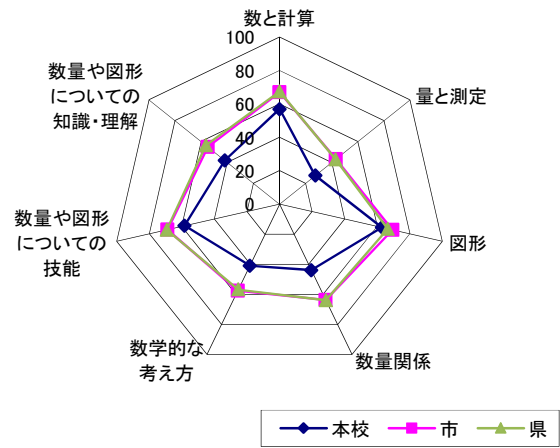
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均より下回っている。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する問題では、市平均より15.0ポイント下回っている。 ●話し合いの中で意見の共通点を考えて書く問題では5.4ポイント、話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話す問題では5.0ポイント下回っている。	○話し合い活動を授業の中で多く取り入れる。その際、話す時のポイント、聞くときのポイントを押さえられるよう指導する。 ●話し合いの役割分担などに気を付けたり、テーマに沿って話し合ったりする機会を意図的に増やしていく。 ●話し手の意図を考えながら、大切なことを聞き逃さないように聞く態度を養う。
書くこと	平均正答率は、市平均より下回っている。 ●インタビューの結果を基に、必要な内容を整理して書く問題では、市平均より23.6ポイント下回っている。 ○資料(表)を基に説明する問題では、市平均より6.5ポイント上回っている。 ○掲示物の内容に合う資料を選ぶ問題では、市平均より1.0ポイント上回っている。	○各教科において、自らの思いを自らの言葉で書く機会を設けることで、言語活動の充実を図っていく。 ●資料を基にして文章を書いたり、ポスターを描いたりする教材を有効に活用し、趣旨に沿った内容の文章を書く力を高める。
読むこと	平均正答率は、市平均より下回っている。 ●文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する問題では、市平均より10.2ポイント下回っている。 ●登場人物についての描写から、心情を想像して読む問題では、無回答率が25.7%と高かった。	○物語文の学習では、場面ごとにどのような内容が書かれているかを要約する機会を設けたり、どこが山場になっているかを確認したりしながら、話の内容が読み取れるようにする。 ●説明文の学習では、どのような文章構成になっているのか、筆者のもっとも言いたいことは何かに注目させ、全体として話の趣旨が読み取れるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市平均より下回っている。 ●漢字の読み「努める」の問題では、市平均より49.4ポイント下回っている。さらに無回答率も34.3%と高かった。 ●漢字辞典の使い方の問題では、市平均より24.4ポイント下回っている。 ○日常使われている簡単な単語の、ローマ字の読み方の問題では、市平均より8.0ポイント上回っている。	○宮っ子ステップアップシートや漢字ドリル等を継続して活用し、学習内容の定着を図っていく。 ●漢字の読み方や言葉の意味が分からないときには、漢字辞典や辞書を使って、調べる習慣を身に付けさせる。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.9	66.9	67.4
	量と測定	27.4	43.2	43.0
	図形	62.9	69.4	66.5
	数量関係	43.9	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	40.9	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	58.3	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	41.9	54.9	56.4



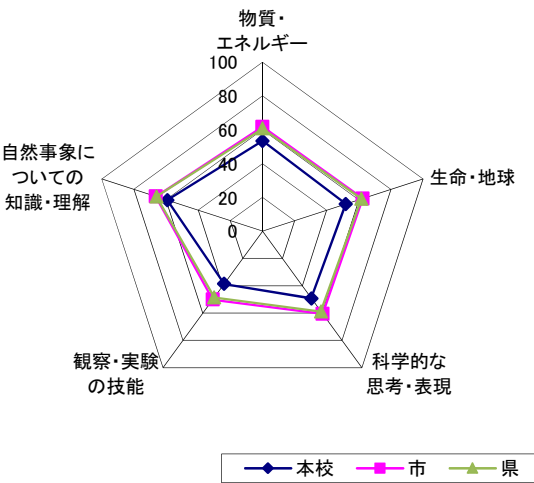
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●数直線上の矢印の値を表す数を分数で表す問題では、市平均を22.3ポイント下回った。 ●3位数÷2位数＝2位数(商に空位、余りあり)の問題では、市平均を21.4ポイント下回った。 ○1000円以内で全部買えるか見積もる方法を選ぶ問題では、市平均を0.4ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の展開において、振り返りの時間を必ず設け、学習内容の定着を図る。 ・分数や少数の定義について再確認するとともに、朝の学習の時間や授業の始まりなどを用い、計算の練習を繰り返すようにする。
量と測定	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明する問題では、市平均26.0ポイントを下回った。この問題の正答率は0%だった。 ●1㎡の正方形は1㎢の正方形何枚分かを求める問題では、市平均を25.7ポイント下回った。	・考え方を説明する時に、算数的用語を正しく使って説明できるよう、授業中から意識して用語を用いて発表したり、ノートにまとめたりする。 ・面積の単位換算、面積の求め方については、視聴覚教材を活用したり、自らが操作する機会を取り入れたりしながら、学習内容の定着を図る。
図形	平均正答率は、市平均を下回っている。 ○平面上にあるものの位置を表す問題では、市平均を6.5ポイント上回った。正答率が85.7%だった。 ●与えられた2辺の続きを描いて、平行四辺形を完成させる問題では、市平均を19.6ポイント下回った。	・様々な三角形や四角形の特徴を正しく理解できるよう、復習問題を取り入れていく。実際に作図をし、三角形や四角形の性質についてじっくり考える機会を設けていく。
数量関係	全ての問題で市平均を下回っている。 ●ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式で表す問題では、市平均を48.8ポイント下回った。さらに、無回答率も42.9%と高かった。 ●買い物の場面で、1つの式に表した考え方を完成させる問題では、市平均を26.7ポイント下回った。 ●1人の考え方を選び、1つの式に表し、おつりを求める問題では、市平均を22.2ポイント下回った。	・フォローアップシートや計算ドリル等を活用し、表を読み取ったり、表の変わり方に目を向けさせたりしながら、数量の関係を式に表す問題を解く機会を多くする。 ・表や式から読み取れたことを自らの言葉で書くことを大切に指導していく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.4	61.7	60.7
	生命・地球	51.9	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	49.2	60.6	58.9
	観察・実験の技能	38.6	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	59.2	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●閉じ込めた空気を圧す際の体積の手応えの変化が分かる問題では、市平均を20.7ポイント下回った。 ●電池のつなぎ方とおもりを引き上げる時間を関係付ける問題では、市平均を20.5ポイント下回った。 ○水の温度変化と体積変化を関係付けることができる問題では、市平均を12.8ポイント上回った。 ○金属は熱した部分から順に温まることが分かる問題では、市平均を10.9ポイント上回った。 ○予想が一致した場合の結果を見通すことができる問題では、市平均を7.3ポイント上回った。	・フォローアップを活用して既習事項を復習し、再度定着を図っていく。 ・実験に関心が高い児童が多いため、日常生活と実験が結びつくようなテーマを設定し、実験への意欲がさらに高まるようにする。 ・実験の際には、どこに注目すべきかのポイントを示し、目的意識をもって実験に臨めるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●方位磁針の適切な操作方法が分かる問題では、市平均を17.2ポイント下回った。さらに、正答率が20.0%だった。 ●コップの内側に水滴が付いた理由を説明する問題では、市平均を16.6ポイント下回った。さらに無回答率も25.7%と高かった。 ●コップの外側に水滴が付いた理由を説明する問題では、市平均を15.3ポイント下回った。さら無回答率も25.7%と高く、記述式のためか正答率は11.4%だった。 ○骨と骨のつなぎ目を「関節」ということが分かる問題では、市平均を3.5ポイント上回った。正答率も91.4%と高かった。	・児童の日常生活における疑問や発見を拾い、それらを導入に取り入れ、生命・地球分野への関心が高まるよう支援していく。 ・授業の中で、復習・まとめの時間を十分に確保し、学習内容の定着を図っていく。 ・フォローアップを活用して既習事項を復習し、再度定着を図っていく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の本校の肯定的回答の割合は100%である。また、「家で、自分で計画を立てて勉強している」は肯定的回答が82.9%で市の平均を11.1ポイント上回り、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」は肯定的回答が82.9%で市の平均を19.0ポイント上回っている。家庭での学習に関する質問に対する肯定的回答はすべての項目において65%以上で、いずれも市の平均を上回っていることから、おおむね家庭学習の習慣が身に付いているといえる。しかし、家庭学習の習慣については個人差も大きいので、家庭と連携を図りながら、今後さらに家庭学習での取り組みを進めていく。

●「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」は12.6ポイント、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」は17.0ポイント、市の肯定的回答の割合を上回っている。その一方で、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」は8.2ポイント、市の肯定的回答の割合を下回っている。このことから、家庭学習や調べ学習など、自分の力で取り組む活動は得意だが、話し合いで自分の考えを伝えたり、友達と協力しながら問題解決していく活動にはまだ慣れず、苦手に思っている児童が多いといえる。じっくり自分で考える時間を大切にしながら、友達と意見を出し合い解決していくペアやグループでの話し合い活動も多く取り入れ、学習を進めていく必要がある。

●「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」は、肯定的回答の割合は94.3%で市の平均を8.6ポイント上回っているが、それに対する平均正答率は46.2%で市の平均を15.1ポイント下回っている。「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」でも、肯定的回答の割合は85.7%で市の平均を7.6ポイント上回っているが、それに対する平均正答率は52.7%で市の平均を11.5ポイント下回っている。これらのことから、児童の意識としては、ノートに自分の考えを書くことに対して苦手意識はないが、実際には、考えを分かりやすくまとめることはできていないといえる。授業では、自分の考えをまとめる時間を確保し、考えが書けていることを認めながら、分かりやすい書き方ができている児童を取り上げるなど、どのように書けば明確に伝わるのかを示していく。

●「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」は市の平均より1.6ポイント、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」は、3.4ポイント下回っている。今後も「めあての提示の工夫」や「授業の振り返り」を授業の中で適切に位置付けることで、自ら進んで学習に取り組ませたい。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は4.6ポイント下回っている。授業の中で、一人一人の気付きや考えを深め合う多様な学習形態の工夫を行いたい。

宇都宮市立平石北小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的に話し合い、考え深め合うを授業づくり	授業改善に向けた「3つの視点(めあて・振り返り・自分の考えを書く)」を重視し、授業の中で適切に位置付け、明確な指示や発問を教師がコーディネートしていく。	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」の質問に肯定的回答をした4年生の割合は88.0%、5年生は88.6%だった。「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の質問に肯定的回答をした4年生の割合は、76.0%、5年生は71.4%だった。 授業のめあてをもつこと、まとめ・振り返りをするなどを継続していきたい。
	話し合いなどの言語活動の充実を図り、学習形態を工夫することで、多様な意見に触れ、自分の考えを深めていく。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に肯定的回答をした4年生の割合は84.0%、5年生は74.3%だった。 これからもペアやグループ学習を取り入れて、充実した学び合いの場を作りたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から漢字の書きや計算問題など、基本的な知識や技能に関わる問題において、市・県平均より10ポイント以上下回っているものがいくつかあった。	復習により定着を図る学習の充実	学期末や学年末などに、単元をまとめて復習する学習を行い、各単元の学習内容を身に付けられるようにする。 単元の導入などに前学年までの内容を復習する機会を設定し、定着を図れるようにする。 朝の学習の時間に、ステップアップシート等を活用して繰り返し復習させ、漢字や計算の定着を図れるようにする。